

技術的要件_要求仕様書（地域連携システム）

通しNo	機能	No	機能詳細	可否	理由
1.地域連携システム					
1	基本機能	1	システム管理業務（ユーザマスタ等の登録等）と日常業務が使用者権限設定により区別できること。		
2		2	地域連携室の利用者内で共有できる掲示板機能を保持しており、掲載期間を設定でき、掲示内容は色分けできること。		
3		3	連携医療機関との対応状況をマスタで分類し登録管理できること。またその情報は統計処理画面より出力できること。		
4		4	電子カルテシステム又は医事会計システムと患者基本情報が連携できること。		
5		5	電子カルテシステムと入退院情報が連携できること。		
6		6	電子カルテシステムと患者病名情報が連携できること。		
7		7	電子カルテシステムのマスタと利用者情報、診療科情報、病棟情報の連携が可能なこと。		
8	紹介受付	1	紹介受付情報を登録／変更／削除ができ、紹介受付時の文書情報（紹介状等）をPDF等のイメージデータで管理できること。		
9		2	新患の場合、患者IDの登録を行わず、後日来院し、患者IDを登録した段階で、紹介情報と患者IDの関連付けができること。		
10		3	依頼目的、紹介経路（連携室経由の予約、医師間での予約、事前予約なし）が管理できること。		
11		4	患者の二重登録チェック機能を有していること。		
12		5	連携医療機関情報は医療機関名、診療科、医師名、電話番号、FAX番号が登録できること。		
13		6	紹介受付時の当院担当医、及びその後担当する医師が変更された場合に履歴で管理できること。		
14		7	紹介患者情報として氏名、フリガナ、性別、生年月日、患者番号が登録できること。		
15		8	連携医療機関への予約票（予約回答）が作成できること。		
16		9	検査予約時の説明用添付文書等は予め用意されたPDFファイルから選択して同時に印刷ができること。また当該添付文書は紹介受付の検査依頼内容と連動して初期選択されること。		
17		10	予約票発行画面の予約日時は、電子カルテシステムと予約情報の連携をしている場合は、既に電子カルテシステムにオーダ登録された日時から取り込むことができること。また手入力でも登録が可能であること。		
18		11	予約票発行画面において送付状の作成ができ、予約票と同時に印刷ができること。		
19		12	患者来院情報を電子カルテシステムと連携し、事前予約患者の受診予定から来院済の状態に更新されること。		
20	患者管理	1	紹介や逆紹介患者の管理ができるとともに、紹介・逆紹介関係の無い情報提供依頼や情報入手のみの患者も合わせて管理できること。		
21		2	病名情報が管理できること。病名は紹介依頼時の病名、受診後に確定した病名の登録ができること。なお確定した病名は病名マスタの画面から選択入力できること。また既に電子カルテシステムに患者病名が一画面にて当該患者の紹介／逆紹介／情報提供／情報入手の履歴が一覧で確認でき、それぞれに、依頼日、連携医療機関名、連携医、依頼内容、担当医、依頼病名が表示されること。		
22		3	上記一覧画面は新規登録順以外に、連携医療機関別、依頼病名別にまとめて表示ができ、選択するとその詳細内容が表示され、連続して切り替え表示ができること。		
23		4	入退院履歴のある患者は、電子カルテと連携し、地域連携システム上で入退院日、診療科、病棟、病室を表示できること。		
24		5	連携室より発行する報告書の種類はマスタ上で設定でき、患者状態（受診、入院、退院等）に応じて送付する予定文書が自動生成できること。また当該文書の添付文書等は予め用意されたPDFファイルか		
25		6	紹介や逆紹介情報登録時、紹介医療機関以外に関係機関情報（かかりつけ医、居宅介護支援事業者、訪問看護ステーション等）を登録できること。またその内容は、関係機関名、担当者、電話番号、FAX番号、備考とすること。		
26		7	汎用的に使用できる連絡票が作成できること。また当該文書の添付文書等は予め用意されたPDFファイルから選択して同時に印刷ができること。なお送付状の作成もできること。		
27		8	送付文書を履歴で管理できること。		
28		9			
29		10	連携患者に対し、連携室で行わなければならない業務を、患者の紹介／逆紹介／情報提供／情報入手ごとに進捗管理（予定実績管理）でき、業務種別、発生日、期限日、完了日、内容が登録できる		
30		11	進捗管理の内容は、別画面にて、複数患者を一覧表示でき、患者番号、患者氏名、医療機関名、期限日（範囲指定）、発生日（範囲指定）、完了日（範囲指定）、完了状態で検索できること。		
31		12	紹介患者を受診予定日指定で一覧表示でき、更に印刷することができること。		
32		13	紹介患者の状況（入院中、退院、転帰、治癒、逆紹介等）が管理できること。		
33		14	紹介／逆紹介／情報提供／情報入手ごとに、マスタで自由設定可能な統計分類項目を、最大５項目まで設定でき、診療科別の件数統計として集計できること。		
34		15	逆紹介は紹介元返送（Ｕターン）、他機関逆紹介（Ｊターン）、新規逆紹介（Ｉターン）を区別して、登録できること。		
35		16	最終更新者の表示ができること。		
36		17	紹介や逆紹介の情報を登録することで電子カルテシステム上に紹介患者であることが分かるマーク等の表示が行われること。		
37	業務進捗管理	1	紹介受付、受診報告、入院報告、退院報告、その他連携室が対応する各管理項目を切り替えて進捗管理ができること。		
38		2	設定された期限日を元に処理すべき未対応項目が一覧表示でき、対応を促せること。		
39		3	紹介／逆紹介情報にて管理される項目を検索項目として進捗状況の一覧を表示できること。内容は、紹介、フェーズ（イベント）、受診連絡、医師報告書、逆紹介等の選択表示が可能なこと。		
40		4	以下の表示内容は各種項目別に並び替えることができること。 （来院日、患者氏名、紹介元医療機関、受診報告書の報告予定日及び報告日、逆紹介日、逆紹介先医療機関）		

技術的要件_要求仕様書（地域連携システム）

通しNo	機能	No	機能詳細	可否	理由
41		5	検索後に表示された一覧画面より画面表示内容をCSV型式で直接出力できること。		
42	返書管理	1	医師による作成が必要な文書情報を、連携室が紹介患者の来院情報を登録した時点で、未報告文書として自動生成できること。		
43		2	自動生成する文書は、第一報、経過報告、最終報告等、当院で自由に設定できること。		
44		3	それぞれの文書に対し、必要に応じて作成期限日を来院日を起点に自動設定できること。		
45		4	作成された文書に対し実績登録できること。		
46		5	未報告文書を検索でき、一覧で画面表示できること。		
47		6	未報告文書のチェックリストが科別、医師別に出力できること。		
48	統計	1	統計データの有効活用を考慮し、統計帳票はEXCEL形式で出力できること。		
49		2	紹介統計として、科別医師別紹介患者数 科別依頼内容別紹介患者数 科別検査項目別紹介患者数 連携医療機関別医師別患者数 科別経路別紹介患者数 年齢別紹介患者数 報告状況表 科別医療機関別患者数 科別地区別医療機関別患者数 科別種別別医療機関別患者数 経路別医療機関別患者数が出力できること。		
50		3	逆紹介統計として、科別医師別逆紹介患者数 連携医療機関別医師別患者数 逆紹介患者数、年齢別逆紹介患者数 報告状況表 科別医療機関別逆紹介患者数 科別地区別医療機関別逆紹介患者数 科別種別別医療機関別逆紹介患者数が出力できること。		
51		4	紹介／逆紹介／情報提供／情報入手／連携医療機関のデータをCSV形式等で出力できること。		
52		5	統計は汎用的に利用できるよう抽出データ（紹介、逆紹介、文書情報）、抽出条件、表示項目を指定し、月別推移やクロス集計を作成できること。作成条件は登録でき、統計処理画面に表示されること。		
53		6	抽出条件をユーザごとに保存できること。また保存条件は永久、ログアウトまで、保存なし、で設定できること。		
54	他部門共有	1	電子カルテシステムで選択されている患者の紹介や逆紹介情報が医療機関別に一覧で参照できること。		
55		2	一覧の紹介や逆紹介情報へ関連付けられている文書やPDFを閲覧できること。		